

## 春日明神神社

高山寺の春日明神神社は、日本の古都奈良の春日大社に祀られている四神の総称、春日大明神を祀る神社である。仏教寺院の境内にある神社は今日では珍しいように見えるかもしれないが、これは高山寺の開祖、明恵(1173~1232年)の宗教信仰を反映している。

明恵は華嚴宗と密教的な真言宗の教えを組み合わせ、土着の神々を仏教の神々と同一視していた彼の時代の思想に従った。明恵は春日大社を敬愛しており、頻繁に参詣した。長年念願していたインド巡礼を行わないようにとの春日大明神の忠告を聞き入れるほど、彼の春日大明神への畏敬の念は非常に強かったと言われた。

かつて日本では宗教的慣行の融合が広がりを見せており、多くの仏教寺院は神社と結びついていた。同様に、神道の多くの神々は、仏教の化身と解釈された。実際、高山寺の石水院でも春日大明神・住吉明神の祭神が祀られた。

この習合行為は、新しい法律によって二つの宗教が分離される明治時代（1868-1912年）の初めまで日本で続いた。これらの規制は王政復古に伴って導入された。